

特定非営利活動法人 日本免疫学会
 平成 30 年度 後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
 研究発表報告書

申請者氏名	井上 毅	会員番号	0032929	
申請者の所属・職名	大阪大学免疫学フロンティア研究センター・特任准教授			
出席会議名	Keystone Symposia (B Cell-T Cell Interactions)			
発表論文タイトル	Germinal center-mediated memory B cell development is driven by cooperation of metabolic fitness and survival			

実施結果:

この度は、平成30年度後期Tadamitsu Kishimoto International Travel Awardに採択頂き誠にありがとうございました。私は2019年2月10日～14日に米国コロラド州 **Keystone** で開催された **Keystone Symposia (B Cell-T Cell Interactions)** に参加し、胚中心から記憶B細胞が産生されるメカニズムに関する我々の最新の知見を発表してきました。演題が幸運にも **Workshop** に選出され、ポスター発表および口頭発表を行う機会を得ることができました。

今年の **Keystone Symposia** は、効果的な抗体産生及び液性免疫機能発現を支えるB細胞-T細胞相互作用に焦点を当てた学会であり、この相互作用がどのようにB細胞分化を制御しているのか、そしてその破綻がどのようにアレルギーや自己免疫疾患の発症につながるのかについて、非常に活発な議論が行われました。数年前に **Keystone Symposia** に参加したときに比べると、B細胞研究者、T細胞研究者間の融合がより顕著に促進されている印象を受け、特に胚中心における親和性成熟や分化運命選択には種々の細胞の包括的な理解が必須であることを再認識できました。自身の発表についても分野の専門家たちから重要な指摘、アドバイスをいただき、極めて有意義な学会となりました。

また、同時に開催されていた **Keystone Symposia (Molecular Approaches to Vaccines and Immune Monitoring)** では、(特に米国を中心とした) 政府・アカデミア・製薬企業が一体となった大規模な抗体機能解析に基づくワクチン開発戦略の最前線に圧倒されるとともに、本邦におけるこのようなプラットフォーム形成の必要性を再認識させられました。

最後に、このような貴重な機会を与えていただいた岸本忠三先生、選考委員の先生方、またご推薦いただいた黒崎知博先生に厚く御礼申し上げます。